



たくましい経営体の発展と、
がんばる新規就農者の定着を
わたしたちは全力で応援します。

令和6年3月

飯塚農林事務所田川普及指導センター

はじめに

田川普及指導センターでは、福岡県農林水産振興基本計画が示す5つの目指す方向のもと、『たくましい経営体への発展と、がんばる新規就農者の定着を、わたしたちは全力で応援します。』を普及活動のスローガンとして、「人づくり」、「ものづくり」、「地域づくり」の3つの“づくり”を重点活動目標として定め、2つのプロジェクト課題と7つの部門別課題を設定し、普及活動を展開してきました。

活動に当たっては、市町村や農業委員会、JA等の関係機関・団体で構成する田川地域農業振興協議会をはじめ、指導農業士、青年農業士、女性農村アドバイザーや部会役員等の農家リーダーの皆様との連携・協力により取り組んできたものであり、この場をお借りして、関係の皆様へ感謝申し上げます。

さて、令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症になり、直接農業者に接した活動を基本とする普及指導センターにおいても、あまり制約を受けることなく活動できるようになりました。

まだ完全に安心できる状況ではありませんが、センターでは、感染防止にも配慮しつつ、時宜に応じた講習会や研修会の開催に努めるとともに、個別の巡回指導も積極的に行い、地域農業の課題解決に向けて取り組んできました。

この成果集は、本年度の普及活動で成果の上がった事例や地域での新しい取組等をわかりやすく取りまとめたものです。農業者の皆さんや関係機関の方々の参考にしていただければ幸いです。

最後になりますが、今後とも普及指導センターは、「担い手づくり」を活動の中心に据え、職員一同、一丸となって農家経営の改善と地域農業の振興に取り組んでまいりますので、引き続き普及活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和6年3月

飯塚農林事務所田川普及指導センター

センター長 齋藤 和裕

(表紙の写真説明)

- 左上・・・麦大豆に利用する部分浅耕播種機（水田農業係）
- 右上・・・ICT機器を活用した遠隔でのいちご栽培指導（野菜係）
- 中央・・・ケイトウ展示ほの生育調査（果樹花き係）
- 左下・・・生産拡大を目指す香春町特産品の干し柿（果樹花き係）
- 右下・・・女性農村アドバイザーの豆腐作り（食育）研修会（地域係）

目 次

1 普及活動の主な成果	1
(1) 新たな複合経営による田川地域の園芸振興	
(2) 香春町の農業・農村の活性化	
(3) 新規就農者の確保育成と女性農業者の経営参画支援による担い手育成	
(4) 水田農業担い手の経営強化	
(5) ICT技術を活用した施設野菜の生産性向上	
(6) 信頼される小松菜産地の育成	
(7) いちじく『とよみつひめ』産地の強化	
(8) トルコギキョウの産地維持強化とケイトウの品質向上	
(9) 良質な自給粗飼料生産	
2 管内の動き（トピックス）	12
(1) 青年農業士、女性農村アドバイザーの交代	
(2) 福智町で法人2階建ての集落営農組織が誕生	
(3) いちごのアザミウマ類対策で天敵利用を開始	
(4) 福岡県花き品評会で4年連続の受賞	
(5) 田川地区4Hクラブ員が九州大会で最優秀賞を受賞	
3 参考資料	
(1) 普及指導センターの活動体制	15
(2) 令和5年度農業生産の概要	
①気象の概要	
②主な品目の生産概要	
(3) 主な実証ほ・展示ほ一覧	
(4) 現地活動情報一覧	

1 普及活動の主な成果

(1) 新たな複合経営による田川地域の園芸振興

1 課題化の背景

田川地域は、園芸品目に取り組む経営体が少なく、園芸主体の経営体でも経営規模が小さい状況です。また、JA共販品目についても、他の地域に比べ産地規模が小さく、市場からは産地規模の拡大を期待されています。このため、園芸振興を図ることを目的として、省力栽培技術の導入や外部労働力の活用を推進し、園芸品目を組み合わせた新たな複合経営に取り組む経営体の育成を目指しました。

2 活動の内容

(1) 園芸振興方針の策定

市町村、JAたがわ、田川普及指導センター等で構成する田川地域農業振興協議会において策定した「田川地域農業振興計画」に基づき、同協議会の園芸畜産部会を中心に複合経営を進めていくための園芸振興方針について協議を重ねました。

(2) 複合経営に取り組む農家の育成と波及

JA等と選定したブロッコリー、さやえんどう、ケイトウ等を取り入れた複合経営類型のモデルを作成し、各類型の売上目標を設定しました。複合経営への取組は、JAと選定した農家へ個別に推進するとともに、JA機関紙への掲載や説明会を行いました。また、取組農家へは作付け講習会や個別現地指導等を行うとともに、売上目標に達していない農家には個別課題の整理と改善策の提案を行いました。



ケイトウ栽培説明会の様子

(3) 園芸品目導入に向けた省力化の推進

ICT技術を使った遠隔地からハウス内環境のモニタリングと記録ができる環境測定機器の導入を図るため、環境測定機器の活用研修会を開催しました。また、省力栽培技術を導入するため、追肥を省く施肥体系の導入講習会やドローン防除機、定植機等の実演会を行いました。

外部労働力の活用を図るため、夏秋なすやブロッコリーにおいて、収穫物の選別や調製作業を委託できる県北パッケージセンターの利用を推進しました。また、福祉協議会と連携し、作業内容や金額等の条件を調整し、作業受委託に関心のある福祉施設と農家のマッチングを行いました。

1 普及活動の主な成果

3 主な成果

(1) 園芸振興方針策定

園芸畜産部会において、複合経営の導入推進を内容とする園芸振興方針が策定され、関係機関と園芸品目を組み合わせた農家育成の認識を共有できました。

(2) 複合経営に取り組む農家の育成と波及

水稲農家9戸がブロッコリーを、園芸農家15戸がさやえんどう、ぶどう、ケイトウを新たに導入する等、モデル経営類型に取り組む農家24戸が育成でき、このうち17戸が売上目標を上回りました。

さらに、ブロッコリーは令和2年度より面積が1.1ha拡大し、さやえんどうは令和4年度から新たに共同販売を開始しました。

(3) 園芸品目導入に向けた省力化の推進

小松菜、いちご、トルコギキョウの農家それぞれ1戸が、ハウス内環境をモニタリングできる測定機器を導入し、ハウス管理の時間短縮につながり、併せて、ほ場環境のデータが自動で蓄積できるようになりました。また、夏秋なす農家7戸が省力的な施肥体系へ転換し、水稲農家2戸がドローン防除機、花き農家1戸が施肥機を導入する等、省力栽培技術の導入が進みました。

さらに、水稲専作農家4戸が野菜定植機を導入し、ブロッコリーの作付けを増やしたことで経営規模の拡大につながりました。

外部労働力の活用では、ブロッコリー農家16戸、夏秋なす7戸が県北パッケージセンターの利用を始め、いちご、小松菜の農家それぞれ2戸が農福連携に取り組みました。

農福連携に取り組んだ農家から聞き取りを行った結果、さらに活用を進めるためには、農家側の作業内容の細分化等、事前準備の重要性が確認できました。

4 今後の取組

今後も田川地域の園芸を振興するため、関係機関と連携を取り、市場動向を踏まえた品目を検討するとともに、ハウス環境測定機器や防除機、定植機等の省力機械の導入による省力化や外部労働力の活用によって、園芸品目導入や経営の規模拡大等に取り組む農家の育成を進めていきます。

特に、農福連携については、受委託をスムーズに行うために、農家の事前準備に関する支援を行うとともに、受委託体制の整備を図っていきます。

1 普及活動の主な成果

(2) 香春町の農業・農村の活性化

1 課題化の背景

都市近郊の中山間地に位置する香春町の農業は、水稻を主体とし、花や露地野菜等の多様な品目のほか、特産品として干し柿、ユズ、レンゲ米等が生産されています。

一方で、担い手の減少・高齢化による集落機能の低下や、鳥獣被害や耕作放棄地の拡大が危惧されています。また、特産品の生産量は漸減傾向で、既存品目の維持拡大と新たな特産品による活性化が必要です。

そこで、令和4年度から多様な担い手の確保・育成と強化に向けた取組、特産品づくりや新規品目導入に向けた支援を行っています。

2 活動の内容

(1) 多様な担い手の確保・育成と強化

町、JA、普及指導センターによる担い手会議を開催し、令和4年度に設定した重点地区で、今後10年の耕作農地や経営規模の意向に関するアンケートを実施し、地域の農地をどの様に守るかを描いた集落ビジョンの作成に向けて検討を行いました。

また、地域の担い手となる集落営農組織に対し、主要な品目である麦や飼料用米の安定生産に向けた栽培指導や、永続的な組織運営を目指した経営支援を強化しました。

(2) 有利販売のための仕組みづくり

町、JA、商工会、道の駅、普及指導センターによる特産品・特産物推進検討会を開催し、既存品目の課題整理と取組方針を検討しました。特に、レンゲ米についてはロードマップを作成し、役割分担・スケジュールを見える化する等、ブランド力強化に向けた取組を協議しました。また、新規に導入する品目の選定についても協議を行いました。

(3) 地域に適したものづくり

新規品目として検討しているピーツは、栽培展示ほを設置し、冷涼で鳥獣害の多い香春町での栽培適性を検証しました。

また、干し柿は、原料渋柿の収穫から加工までの期間延長に係る試験を実施したほか、干し柿生産者を対象とした先進地視察を実施し、渋柿の確保や衛生管理等について意見交換を実施しました。



干し柿原料の渋柿を2、3週間冷蔵後皮むき等の加工適性を確認

1 普及活動の主な成果

3 主な成果

(1) 多様な担い手の確保・育成と強化

重点地区として選定した中組地区において、アンケートを実施し、その結果を反映した10年後の農地の目標地図が作成できました。この地図を基に地元協議を実施し、集落ビジョンが策定されました。

また、集落営農組織は、飼料用米への取組が拡大しました（R4：1組織で12ha→R5：2組織で17ha）。

(2) 有利販売のための仕組みづくり

特産品・特産物推進検討会において、レンゲ米や干し柿、ユズ等、品目別に取組方針が策定されました。

レンゲ米については、生産者を含めた特産品づくり協議会が設立され、レンゲ米研究会の立上げや、ふくおかエコ農産物認証取得によるブランド力強化に向けた取組を令和6年度から実施することが決定しました。



4月頃のレンゲの様子

5月上旬に緑肥としてすきこみます。

(3) 地域に適したものづくり

ビーツについては、栽培展示ほの結果から、9月中～下旬までの秋播きが播種適期であることや、かん水による発芽の安定や播種後の雑草対策が重要であるとわかりました。また、鳥獣被害は確認されませんでした。

干し柿は、原料渋柿を冷蔵することで、収穫後2～3週間の保存が可能であることが確認できました。生産量の制限要因のひとつである収穫・加工時期の作業競合が緩和されることで、生産量の増加が期待されます。また、冷蔵保存中の追熟効果も確認され、品質向上の可能性が示唆されました。以上の結果については、干し柿生産者と情報を共有し、生産量の増加に向けた意欲増進につながりました。

4 今後の取組

重点地区での集落ビジョン策定の手法を活かし、他地区でのビジョン策定支援を行います。

持続性のある地域の担い手組織を目指し、集落営農組織等への経営支援を続けていきます。

香春町特産品・特産物推進検討会での検討及び特産品づくり協議会におけるレンゲ米や干し柿での取組を継続的に支援していきます。また、新たな特産品（新規品目）候補としてサツマイモに関する取組を検討しています。

1 普及活動の主な成果

(3) 新規就農者の確保育成と女性農業者の経営参画支援による担い手育成

1 課題化の背景

田川地域の基幹的農業従事者数は、過去5年間で17%減少し、65歳以上の割合は80%と、県平均の66%より高く高齢化しており、地域農業の担い手の育成が急務です。また、女性の認定農業者は8名と少なく、女性農業者の活躍を促進することも必要です。そこで、地域の担い手を育成するために、新規就農者の確保育成と女性農業者の経営参画支援に取り組んでいます。

2 活動の内容

(1) 新規就農者の確保と育成

市町村と連携し、就農相談への対応や就農計画の策定支援を行いました。また、経営開始資金の受給者に、関係機関で構成したサポートチームが現地指導を実施し、計画達成に向けた栽培技術の向上支援や、経営面での助言等を行いました。

(2) 女性農業者の経営参画

女性農業者の経営参画を目指し、女性が活躍する経営のロールモデルへの視察研修等を行い、女性農業者の経営発展への意欲増進を図りました。

(3) 新たな認定農業者の育成

認定候補者について、関係機関と意見交換を実施しました。特に、5年目の認定新規就農者を対象に、より安定的な経営体である認定農業者にステップアップできるよう、栽培計画や経営方針決定に向けた相談会を実施しました。

3 主な成果

(1) 新規就農者の確保と育成

9名が新規就農し、経営開始資金の受給者4名が、就農計画の年次売上げ目標等を達成しました。

(2) 女性農業者の経営参画

経営発展を目指し、新たに果樹品目を導入する女性農業者を育成できました。

(3) 新たな認定農業者の育成

認定新規就農者からステップアップした経営体を含め6経営体が、認定農業者として新規に認定されました。



認定新規就農者の認定証授与式（福智町）

4 今後の取組

新規就農者の安定経営確立に必要な支援を継続し、認定農業者へステップアップに向け取り組みます。また、女性認定農業者の育成に向けた支援を継続します。

1 普及活動の主な成果

(4) 水田農業担い手の経営強化

1 課題化の背景

水田農業の担い手の高齢化が進展しており、今後の地域農業の維持や土地利用型作物の安定生産に支障を来すことが危惧されています。大豆では部分浅耕—工程播種技術の導入等を推進し、収量は県平均に近づいてきました。また、令和4年度から、新たに大豆の採種ほが設置されました。そこで、水田農業担い手の確保や経営改善を支援するとともに、更なる大豆の単収向上や大豆種子の安定生産に取り組んでいます。

2 活動の内容

(1) 水田農業担い手の経営改善

集落営農組織の法人設立準備委員会に出席し、助言を行うとともに、個別大規模農家への専門家派遣やビジネスプランの策定・実践支援を行う等、集落営農組織の法人化や個別大規模農家の経営計画の目標達成を支援しました。

(2) 大豆の安定生産

講習会や現地検討会を開催し、適期播種や病害虫防除等の徹底を図りました。近年、カメムシ被害で収量・品質低下が低下しているため、防除時期や使用農薬の見直しを行いました。また、令和5年度から新たに採種を開始した経営体に対し、重点的に個別指導を行いました。

3 主な成果

(1) 水田農業担い手の経営改善

福智町において、県内初となる2階建て法人（1階部分の一般社団法人が土地利用調整を行い、2階部分の農事組合法人が担い手となり営農を行う）が設立され、地域営農の維持強化に向けた体制が整いました。個別大規模農家については、経営理念や経営戦略を定めたビジネスプランが作成され、令和6年度の法人化を目指しています。

(2) 大豆の安定生産

令和5年は梅雨明けが平年より遅れましたが、生産者の適期播種に対する意識の高まりにより、7月中に播種が完了しました。また、適期防除が行われ、特に採種大豆では、責任生産量（40t）を達成することができました。



大豆『ふくよかまる』採種ほ

4 今後の取組

引き続き、担い手の経営改善と法人化を推進します。また、麦・大豆の安定生産と品質向上に向けて、講習会、現地検討会や個別指導を実施します。

1 普及活動の主な成果

(5) ICT技術を活用した施設野菜の生産性向上

1 課題化の背景

管内のいちご、ミニトマト、なす等の施設野菜では、これまで行ってきた経験や勘による管理ではなく、データに基づく管理技術の習得が課題となっています。そこで、令和5年度から施設内環境データをリアルタイムで確認・記録することが可能な環境測定装置（以下、ICT機器）を活用し、ランニングコスト削減や収量増加による所得向上事例を作り、産地全体に技術を波及させるための活動を実施しています。

2 活動の内容

(1) ICT機器の有効利用

JAたがわのいちご・ミニトマト・促成なす部会員16名に対し、各部会員のICT機器の導入状況や関心の程度等を調査しました。今年度は関心をもつ農家割合が高いいちご・促成なすの農家を対象に、栽培管理への環境データの活用を勧める研修会を行いました。

(2) 収量向上

いちごでは、生育診断とICT機器で記録した環境データに基づく温度や電照等の管理を行う実証ほを設置し、併せて効率的なCO₂濃度の管理手法を支援しました。

促成なすでは、記録したデータを活用し、目標とするハウス内環境に近づける温度とCO₂濃度の管理について指導を行いました。

3 主な成果

(1) ICT機器の有効利用

レンタル機器（2戸）も含め、いちご農家3戸がICT機器を活用した栽培管理の実証を始め、来シーズンは本格導入を行うこととなりました。

(2) 収量向上

実証ほを設置したいちご農家のうち、1戸の1月末時点の反収が前年に比べ増加しました。また、2戸でCO₂発生装置の燃油代が約50%削減されました。



生育診断を行う農家

4 今後の取組

実証ほによって明らかになったICT機器導入のメリットを、対象部会に周知し、ICT機器の導入を推進します。さらに、ミニトマトにおけるデータ活用事例の情報収集と研修会を行い、所得向上事例の創出と技術の普及を図ります。

1 普及活動の主な成果

(6) 信頼される小松菜産地の育成

1 課題化の背景

J Aたがわ小松菜部会では、夏期（7月～9月）の発芽不良や葉先枯れ等の生育不良により出荷量が低下しており、安定した出荷量を確保することが課題となっています。また、部会員の食品安全への関心が高まってきており、異物混入対策や農薬の安全使用に係る生産工程管理の改善等に取り組み、信頼される産地育成を目指しています。

2 活動の内容

(1) 夏期生産量の安定

特に、安定出荷が求められる契約栽培農家7戸を対象に、発芽不良や葉先枯れの発生防止のため、土壌診断に基づく適正な施肥や、かん水の方法・量等について改善提案を行いました。また、高温による生育不良対策のため、寒冷紗の展張や耐暑性が強い品種の導入を進めました。

(2) 生産工程管理チェックによる生産改善

生産工程管理の改善に意欲的な4戸を対象に、県のGAP認証チェックリストを活用し、調製所の作業ごとの異物混入リスクの確認、農薬の正しい保管と使用の手順の確認等に取り組みました。

3 主な成果

(1) 夏期生産量の安定

契約栽培農家7戸のうち、3戸が寒冷紗を展張、6戸が耐暑性の強い品種を導入し、そのうち3戸が夏期の出荷量を前年より増やすことができました。

(2) 生産工程管理チェックによる生産改善

調製所と農薬保管場所の改善に4戸が取り組み、新たに施錠できる農薬保管庫を導入する農家もありました。作業の動線が確保され、また、作業道具や農薬を探す手間が省かれたことで、作業時間の短縮にもつながりました。これらの取組を進める中で、2戸が福岡県GAPの認証を取得しました。



整理整頓された
農薬保管庫

4 今後の取組

効果の高いと思われる耐暑性の高い品種導入と寒冷紗被覆を進めるとともに、土壌やかん水の改善を進め、夏期の出荷量の安定を図ります。また、生産工程管理の重要性を一層啓発し、安全で信頼される小松菜の産地育成に努めます。

1 普及活動の主な成果

(7) いちじく『とよみつひめ』産地の強化

1 課題化の背景

J Aたがわいちじく部会では、高品質な『とよみつひめ』の生産に努めていますが、近年の夏季の高温によって成熟異常果の発生や樹勢の低下等の問題が発生し、秀品率や単収が低下しています。そこで、生産量の確保による産地の維持・拡大を図るため、令和4年度から秀品率及び単収向上の取組を行っています。

2 活動の内容

(1) 共販秀品率の向上

成熟異常果の発生を軽減し、秀品率を向上させるために、個別巡回による栽培指導や管理講習会を実施し、結果枝の適正な間隔での配置や土壌診断に基づいた施肥の指導等を行いました。また、ハウス内の通風改善を図るため、これまでより循環扇の台数を増加させた高温対策展示ほを設置しました。

(2) 樹勢改善の取組

個別巡回時に、各ほ場ごとの樹勢低下の要因を分析しました。害虫等により主枝が劣化しているほ場では、主枝を更新する剪定を支援しました。



通風改善のための循環扇

3 主な成果

(1) 共販秀品率の向上

部会では、高品質な果実の生産と徹底した厳選出荷により高単価を維持しています。特に品質の高い秀品は高単価で取引されており、共販秀品率は令和4年産の14%から令和5年産は23%に向上しました。また、高温対策展示ほでは、循環扇の台数増加によって通風が改善され、ハウス内気温の上昇抑制効果が確認できました。

(2) 樹勢改善の取組

7割以上の生産者が、それぞれの樹勢低下の要因に応じた対策を実施し、主枝更新により結果枝が確保される等、樹勢改善が図られました。

4 今後の取組

展示ほで得られた結果をもとに、各ほ場で導入可能な高温対策を提案し、通風改善施設の拡大を図ります。また、樹勢改善の取組農家100%に向けた個別巡回指導や管理講習会の実施等、秀品率及び単収向上に向けた支援を継続して行っていきます。

1 普及活動の主な成果

(8) トルコギキョウの産地維持強化とケイトウの品質向上

1 課題化の背景

管内は、秋出しトルコギキョウ及び盆や彼岸出しケイトウの主要な産地の1つです。JAたがわのトルコギキョウ2部会では、生理障害の発生や病害虫の被害による出荷本数の減少、大輪八重咲き品種の無計画な導入による下位等階級品の発生が問題となっています。また、ケイトウ部会では、品質向上が課題であり、その改善に向けて取り組んでいます。

2 活動の内容

(1) 秋出しトルコギキョウの産地強化

生理障害対策として、作付け前後に土壌分析を行い、窒素過剰のほ場における減肥等、堆肥を含めた施肥改善を支援しました。また、病害虫の薬剤抵抗性対策として、農薬のRACコードに基づくローテーション散布を推進しました。加えて、部会推奨品種の選定において、市場情報把握のための県域会議への出席誘導、合意形成に向けたアンケート調査及び収益性の高い品種を選ぶマトリックス分析を行いました。

(2) ケイトウの品質向上

生育初期のかん水量の確保、収穫前のかん水量の抑制及び液肥施用による茎や花首の硬化を凶るとともに、強風による茎の曲がり防止するため、フラワーネット用支柱の設置間隔の見直し等の提案を行いました。

3 主な成果

(1) 秋出しトルコギキョウの産地強化

減肥の取組(4名の生産者が実施)及び病害虫防除の徹底により、令和5年度の共販出荷率は64%に向上しました(2年度は48%)。また、推奨品種の選定により、5年度の栽培品種数は、3年度の約半数の16品種に減少し、上位等階級品割合は83%に増加しました(2年度は66%)。その結果、部



トルコギキョウの土壌分析

会平均単価は県平均を10円以上上回りました。

(2) ケイトウの品質向上

令和5年度の秀品率は、2年度より7%増加して78%となり、市場評価の高まりにより、単価は13円向上しました。

4 今後の取組

土壌分析と分析結果に基づく施肥改善の実践農家を増やすとともに、新規作付け者の確保により生産面積の拡大を図り、出荷量の増加を目指します。

1 普及活動の主な成果

(9) 良質な自給粗飼料生産

1 課題化の背景

自給粗飼料は、穀物の国際相場や輸入牧草価格の変動に左右されず、畜産経営のコスト低減や安定化に寄与します。そこで、令和4年から良質な自給粗飼料の生産に向け、管内の酪農家が栽培しているイネ科のイタリアンライグラスを対象に、飼料中の粗蛋白質含有量 10%以上を達成する目標を設定し、支援を行いました。

2 活動の内容

- (1) イタリアンライグラス収量調査 10カ所
- (2) 飼料成分の分析 10カ所
- (3) 実証ほ場の設置と講習会・現地指導

実証ほ場を設置し、播種時期や収穫時期の違いによるイタリアンライグラスの収量及び栄養成分の影響について調査しました。その結果に基づき、講習会の開催や対象農家への品種選定、肥培管理等の現地指導を行いました。

3 主な成果

令和4年（取組初年目）に粗蛋白質含有率 10%以上の目標を達成できた農家は、3戸となりました。

令和5年（取組2年目）に新たに目標を達成できた農家2戸で、5戸に増加しました。

また令和5年における管内の粗蛋白質含有量は、令和4年から平均値が0.3ポイント向上しました。

表 イタリアンライグラス粗蛋白質の含有量

農家名	R4 %	R5 %	目標達成年
A	9.8	13.1	R 5
B	—	9.1	
C	8.9	9.9	
D	5.6	9.3	
E	14.2	8.7	R 4
F	8.6	9.4	
G	6.0	5.7	
H	8.8	12.1	R 5
I	12.3	—	R 4
J	14.3	11.5	R 4
K	5.5	8.2	
管内平均	9.4	9.7	
県平均	9.2	9.2	

※分析は県農林業総試の近赤外検査線による

※県平均は県農林業総試調べ

※目標は1回以上達成すれば良い

4 今後の取組

未達成者には、関係機関と連携しながら目標達成に向けて引き続き支援を行います。

2 管内の動き(トピックス)

(1) 青年農業士、女性農村アドバイザーの交代

令和5年5月10日に、福岡県農業士感謝状授与・認定証交付式が行われました。田川管内では現在4名の青年農業士が活動されており、今回糸田町の山口憲氏が退任されました。山口氏には、平成28年から6年間にわたり、交流会や研修会への積極的な参加を始め、筑豊地区の会長も務め、コロナ禍で希薄となっていた青年農業士間の交流を活性化させる等リーダーシップを発揮していただきました。

なお、後任には川崎町でイチゴを栽培されている山下理江氏が、本県初となる女性の青年農業士として認定されました。



令和5年度退任者(山口憲氏:中央)



令和5年度新任者(山下理江氏:右)

また、令和6年2月16日、女性農村アドバイザーの表彰・認定式が開催され、感謝状授与並びに認定証が交付されました。田川管内では現在8名の女性農村アドバイザーが活動されており、今回田川市の山本洋子氏と原田加奈枝氏が退任されました。両氏は、令和元年から5年間にわたり、地元小学校での食育活動を始め、飯塚地区との合同研修会にも積極的に参加され、女性農業者の経営参画促進や地域活動の実践にご尽力いただきました。

なお、後任には大任町で自家製の野菜やハーブの加工・販売をされている林三裕紀氏が認定されました。



(左:山本洋子氏、右:原田加奈枝氏)



(林三裕紀氏)

2 管内の動き(トピックス)

(2) 福智町で法人2階建ての集落営農組織が誕生

福智町の集落営農組織「伊方地区営農組合」が法人化し、令和5年10月に「一般社団法人 伊方営農組合」、同12月に「農事組合法人 伊方ファーム」が設立されました。伊方地区営農組合では、麦、大豆の生産やライスセンターの運営を行ってききましたが、担い手の高齢化が課題でした。そこで、地域営農を永続的なものにするため、令和5年3月に、任意組織役員、町、JA、普及指導センターで構成する法人設立準備委員会を立ち上げ、法人2階建ての集落営農組織について、設立までに20回を超える会議で検討がなされました。

法人2階建ての集落営農組織は、一般社団法人(1階部分)と農事組合法人を含む担い手(2階部分)からなり、一般社団法人は地区内の土地利用調整を行うとともに、各種交付金の受け皿となります。仮にリタイアする農業者がいた場合、一般社団法人が調整し、近隣の担い手に集約することが容易になるため、今後の効率的な土地利用や担い手確保に資することが期待されます。



(一社) 伊方営農組合 設立記念式典

(3) いちごのアザミウマ類対策で天敵利用を開始

近年、管内のいちご栽培において、既存の農薬に抵抗性をもつと思われるアザミウマ類による果実への被害が問題となっており、収量低下の原因となっています。そこで、いちご農家2戸のほ場において、アザミウマ類を捕食する天敵(ククメリスカブリダニ)を利用した防除方法の試験を行っています。試験にあたっては、農薬散布による天敵の減少を防ぐため、天敵に影響の少ない農薬の選定と散布スケジュールを作成し、防除を実施しています。

いちごの収穫期間は11月から5月のため、天敵によるアザミウマ類の抑制効果は現在調査中ですが、これまでのところ、天敵放飼した11月から1月までのアザミウマ類による被害は確認されておらず、春期のアザミウマ類の抑制効果も期待されます。



天敵を放飼する農家

2 管内の動き(トピックス)

(4) 福岡県花き品評会で4年連続の受賞

令和5年度福岡県花き品評会(産物の部)で、添田町の井上茂之氏が、福岡県知事賞(品目:ランキョウ『グレンス』)及び全国農業協同組合連合会福岡県本部長賞(品目:トルコギキョウ『セレブクリスタルⅢ型』)を受賞しました。井上氏は、産物の部において令和2年度から4年連続の受賞となりました。

井上氏は、防蛾灯を用いた害虫防除による農薬使用回数の低減や、普及指導センターが支援する土壌分析結果に基づく適切な施肥等、環境にやさしい栽培管理による花のボリューム確保を心掛けておられます。また、自身が所属するJAたがわ東部トルコギキョウ部会の若手生産者へ、栽培技術に関する助言・指導を積極的に行い、後進の育成や部会全体の切り花品質向上にも熱心に取り組まれています。



ランキョウ
『グレンス』



トルコギキョウ
『セレブクリスタルⅢ型』

(5) 田川地区4Hクラブ員が九州大会で最優秀賞を受賞

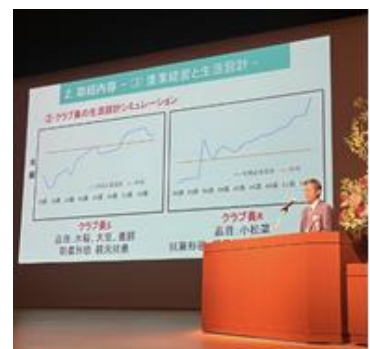
令和5年7月20日から21日にかけて、九州・沖縄地区青年農業者会議が大分県で開催され、田川地区4Hクラブ員2名が福岡県代表として発表しました。この大会は、九州・沖縄各県の青年農業者が集まり、意見発表やプロジェクト発表をとおして技術情報の交換を行い、自身の農業経営に活かすために毎年開催されています。

意見発表を行った高瀬寛人氏(添田町)は、花栽培の失敗から立ち直った経験や地域のモデル農家になるという強い気持ちを述べました。プロジェクト発表を行った中村篤氏(川崎町)は、農業経営に対する理解度向上を目標に、クラブ全体で取り組んだ簿記勉強会や経営シミュレーションの作成等の取組と結果について発表しました。

両者とも青年農業者としての夢や課題解決の取組について堂々と語り、その結果、高瀬氏が最優秀賞を受賞し、全国大会への出場が決定しました。



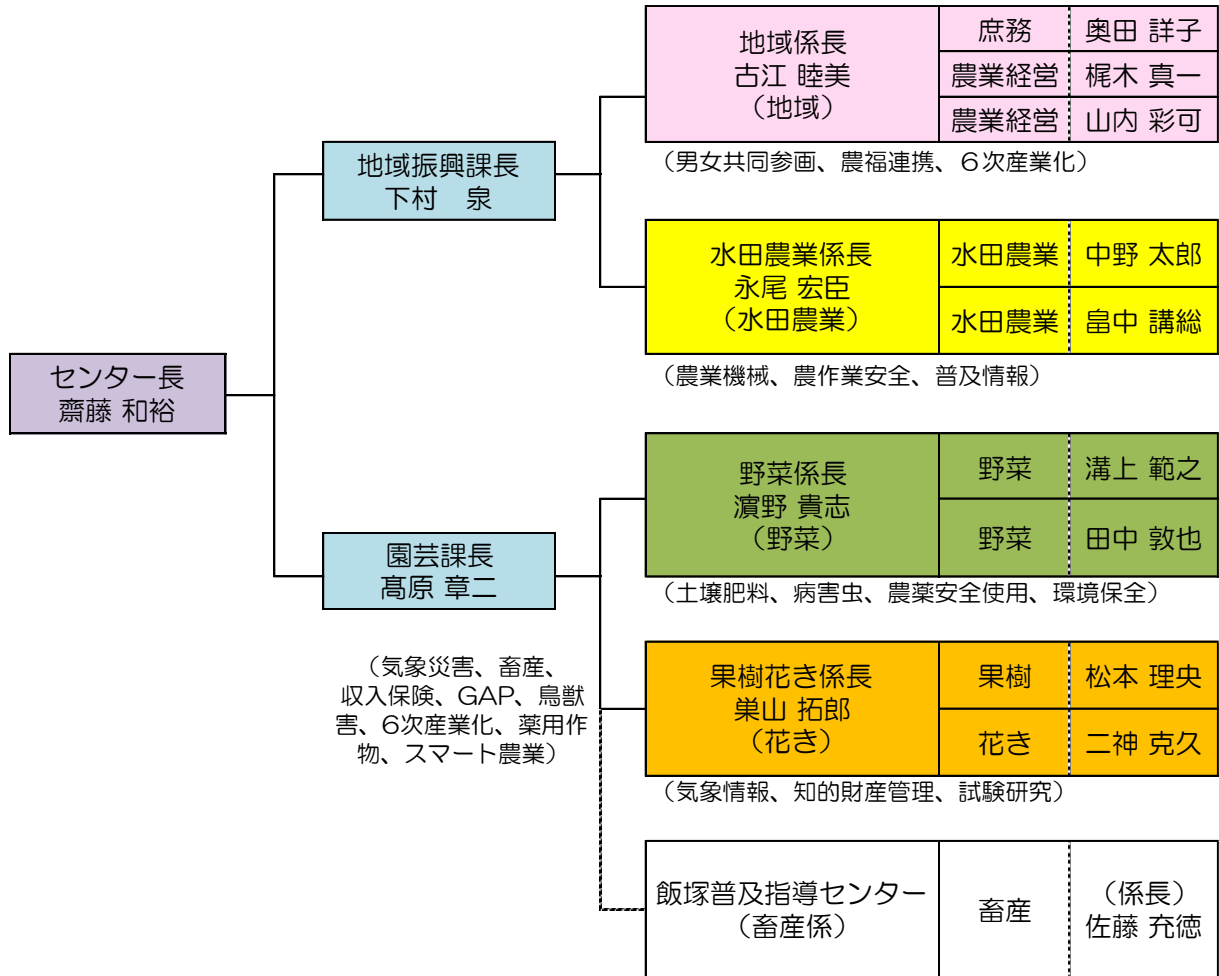
高瀬氏の発表



中村氏の発表

3 参考資料

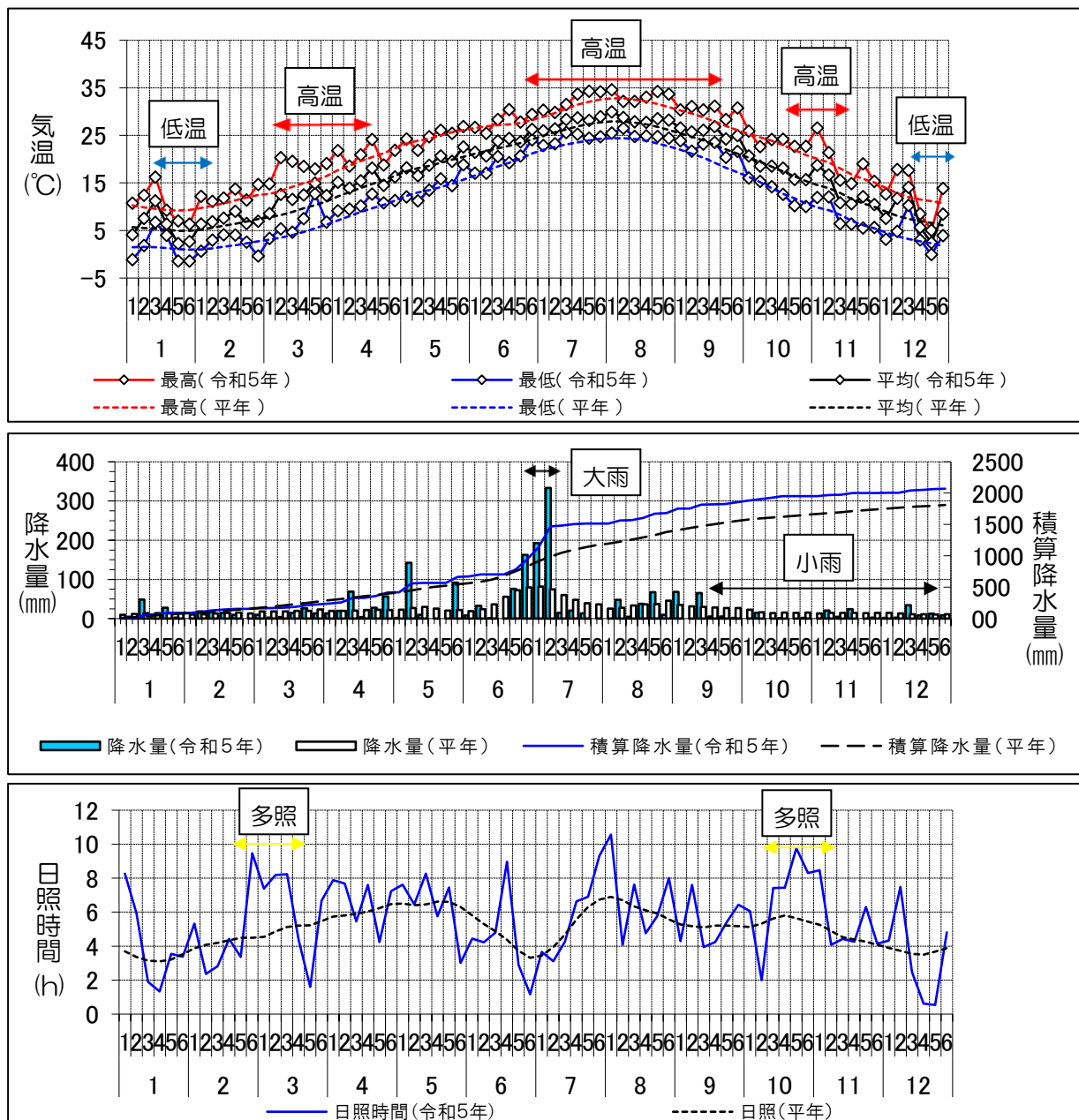
(1) 普及指導センターの活動体制



(2) 令和5年度農業生産の概要

① 気象の概要

令和5年の平均気温は高く(平年値+1.1℃)、降水量はやや多く(平年比108%)、日照時間はやや長く(平年比109%)になりました。梅雨入りは5月29日(平年より6日早い)、梅雨明けは7月25日(平年より6日遅い)となりました。また7月7日から7月10日にかけて、線状降水帯が発生し、総降水量は300mmを超える等、非常に激しい雨が降りました。台風の接近は8月の1回のみで(平年は4回)、その後、9月中旬から12月上旬にかけて少雨多照となりました。



飯塚アメダスデータに基づき作成

3 参考資料

(2) 令和5年度農業生産の概要

② 主な品目の生産概要

水稲:7~9月の高温やカメムシ類の発生により品質低下

水稲作付面積は1,786ha でした（品種割合：夢つくし61%、元気つくし19%、ヒノヒカリ14%）。6月下旬から7月上旬の日照不足により、分げつが抑制され、穂数が少なくなる要因となりました。病害虫では、イネカメムシや紋枯病の発生が目立ちました。県北東部における水稲の作況指数は99の「平年並み」でした。JAたがわ管内では高温やカメムシ類による被害粒が目立ち、2等米が79%を占めました。

麦類:収量は平年を上回り、3年連続の豊作

令和5年産の麦類の作付面積は699ha（小麦662ha、大麦37ha）でした。また、大麦は『はるか二条』に品種が切り替わりました。生育後半にかけて高温で推移したため、収穫は平年より7日程度早く、大麦で5月9日頃から、小麦で5月27日頃から始まりました。10a 当たりの収量は、332kg（小麦333kg、大麦328kg）と過去10年平均の302kg（小麦305kg、大麦231kg）を上回りました。検査等級は、収穫直前の雨が影響し2等が中心となりました。

大豆:梅雨が長引いたが、適期管理により増収

大豆の作付面積は392ha でした。梅雨が長引くなかでも、適期とされる7月20日までに6割以上の播種が進み、7月中に播き終わりました。過去2年はカメムシ被害で減収したため、農薬の種類や散布時期を見直し、防除の徹底を図りました。生育は概ね順調で、開花期～子実肥大期には定期的な降雨もあり、10a 当たりの収量は、前年の67kgを上回る100kg程度（2月時点）が見込まれます。

いちご:普通促成作型の花芽分化が遅れるも、1月までの出荷量は前年並

早期作型の花芽分化は概ね順調でしたが、梅雨明け後の8月から9月の高温の影響で普通促成作型の花芽分化が遅れ、定植の中心が10月上旬となりました。このため、普通促成作型の1番果房出荷ピークは、例年より遅い1月下旬となりました。健苗育成に努めた結果、定植後の炭そ病発生は少なく、早期作型の順調な生育もあり、1月までの出荷量は前年並みを確保できました。

小松菜:品種転換等で発芽不良、葉先枯れが減少

6月中旬までは天候に恵まれ順調な生育が続いていましたが、梅雨時期は、曇天と高温により立枯病やナメクジ類の発生が多くなり、収量、品質ともに低下しました。耐暑性の強い品種への転換もあり、7月~9月は天候の回復とともに生育は順調になりました。しかし、気温が高いことが影響し、一部では収穫が間に合わないほ場も見られました。気温が下がった10月以降の生育は順調に推移しました。

アスパラガス:高温・乾燥の影響で、出荷量が減少

保温開始の遅れと気温の上昇が早かったことで、3月には穂先の開きやダンゴムシ類の加害が増える等、品質が低下しましたが、換気やかん水管理の徹底により5月までの収量は、前年より5%程度の低下で抑制されました。4月から7月にかけては前年並みの生育となり、出荷量も安定しました。8月以降は、高温・乾燥による細芽や曲がりの割合が増え、9月以降の出荷量が減少しました。

夏秋なす:前半の降雨の影響で、出荷量が減少

ほ場準備の時期に降雨が続いたため、一部ほ場で定植遅れ・活着不良となりました。6月下旬～7月上旬の大雨による花落ち、褐紋病・褐色腐敗病の発生、株の樹勢低下により、シーズン通して出荷量が伸び悩みました。令和4年度の実証試験で良好な結果が得られた「葉残し剪定」を実施されたほ場では、大雨後でも樹勢が維持でき、収量は平年並みとなりました。

秋冬野菜:定植は順調、高温で収穫時期が前進化

8月から9月に定植したブロッコリーやハクサイは、かん水や中耕、追肥、防除が徹底されており、生育は順調に進みました。9月～12月の気温が高く推移し、全体的に生育が早まったことから、生産者は栽培管理や収穫作業に追われることもありました。

いちじく:成熟異常果の発生等で出荷量は減少したが、共販秀品率は向上

比較的好天が多く生育は順調で、収穫開始は平年並みとなりました。収穫期の高温・乾燥による成熟異常果の発生等により、昨年度に比べ出荷量は減少しましたが、かん水方法の改善等により品質は向上し、良好に推移しました。

トルコギキョウ:病虫害防除の徹底と好天により、出荷本数が増加

主力の秋出し作型は、生育期前半の高温傾向により、一部で花芽分化の前進化が認められました。病虫害防除が徹底されたことに加え、生育期後半の高日照により開花が順調に進み、出荷本数が昨年度に比べ増加しました。

ケイトウ:強風対策で曲がり発生が軽減し、品質が向上

盆出し作型は、生育期間中の日照量不足により、開花が遅れる傾向が見られました。フラワーネットの支柱間隔を狭める等の強風対策を実施したことで、曲がりの発生が抑えられ、品質が向上しました。

3 参考資料

(3) 主な実証ほ・展示ほ一覧

対象 作物名	課題名	結果概要	設置 場所
田川地域農業振興協議会園芸畜産部会 実証ほ			
水稻	毎年堆肥を施用したほ場における水稻栽培の減肥の検討	豚ふん堆肥を毎年連用したほ場では、土壌中の可給態窒素を除き、有効態リン酸、交換性加里等の各成分は、堆肥由来の成分で必要量を十分賄うことができると考える。	赤村
いちご	ハウス内の環境測定による生産改善	厳寒期において草高および新葉の葉柄長を定期的に測定し、電照・加温管理を行うことで、統計的に反収4t/10a以上を確保できる可能性が高い草勢管理（草丈30～35cmかつ新葉の葉柄長を10～12cm）を確保することができた。	大任町
すいか	すいかにおける生分解性マルチの活用による省力化の検討	生分解性マルチのピオフィレックスマルチを利用した結果、生育に大きな差は認められなかった。栽培終了後すぐに、残渣ごとすき込みが可能となり、後片付け時間が5分の1以下に短縮された。生分解性マルチを利用することで、プラスチック廃棄量の削減と省力化につながった。	赤村
いちじく	いちじく『とよみつひめ』の無加温ハウス栽培における高温対策	高温障害果の発生抑制を目的に、ハウスに換気窓及び循環扇を設置したところ、試験区は慣行区よりハウス内の最高温度が1.5℃程低く、糖度が高い傾向がみられた。着色割合については、差がみられなかったため、更なるハウス内温度の上昇抑制が必要と考える。	田川市
トルコギキョウ	トルコギキョウ新品種の秋出し適応性の検討	ライトピンク系品種『K534』は、対照品種『エスライトピンク』より切り花のボリューム（切り花長、切り花重）が劣り、上位等階級品割合が低かったことから、秋出し適応性は低いと考える。	添田町

3 参考資料

福岡県農業生産資材協会委託、肥料実用化展示ほ			
水稲	水稲肥料(Jコート・レコアップ入り水稲一発肥料866)の現地適応性の検討	肥料の形状が慣行のエムコート2000と異なり、計画どおりに側条施肥できなかった。エムコート2000と比べ、単位面積当たりの粒数が少なく、精玄米重は少なかった。表層施肥で追加したものの、生育に影響したことも考えられるため、再度の試験が必要である。	香春町
ピーマン	ピーマン栽培における基肥一回施肥肥料「夏秋ナス一発2100」の適応性の検討	「夏秋ナス一発2100」を利用した場合、追肥を行わなくても、慣行施肥体系と同等の収量が確保できた。追肥作業に係る労働時間を省力化することができ、ピーマン栽培での基肥用肥料として使用可能である。	赤村
その他の実証ほ・展示ほ			
水稲	水稲奨励品種決定調査	新系統『ちくし102号』及び『ちくし104号』は、『夢つくし』に比べ高温耐性に優れ、玄米品質は良かったが、1穂粒数が少なく、低収であった。	田川市
小松菜	酢酸散布による小松菜の高温障害防止効果の検討	酢酸散布区と無散布区のいずれも葉先枯れ等の発生はなく、高温障害防止の効果は判然としなかった。	大任町
カーネーション	カーネーションの赤色LED照射によるアザミウマ類被害抑制効果の検証	赤色LED設置区、無照射区(対照)のいずれも、アザミウマ類の発生が少なく、カーネーションに被害が認められなかったことから、効果が判然としなかった。	福智町

3 参考資料

(4) 現地活動情報一覧

No	標 題	日付	係
1	田川地区農村女性グループ連絡研究会総会・研修会開催 ～女性農業者の活動を支援～	5/9	地域
2	アスパラ部会で防除講習会を実施 ～化学農薬だけに頼らない総合的な防除体系を目指して～	5/22	野菜
3	豆腐づくり体験授業のための技術伝承研修会を開催 ～ベテランのノウハウを継承～	6/16	地域
4	J Aたがわナス部会が本格出荷に向けた目合せ会を実施 ～安定生産・品質向上に向けた取組を提案～	7/31	野菜
5	J Aたがわいちご部会 育苗講習会を実施！！ ～健全な苗づくりに向けた取組～	7/31	野菜
6	田川4Hクラブ員が最優秀賞を受賞 ～九州・沖縄地区青年農業者会議でクラブ員2名が発表～	8/2	果樹花き
7	女性農業者同士の交流から新たな発見 ～田川地区農村女性グループ連絡研究会研修会～	8/9	地域
8	女性認定農業者の育成支援 ～農家カフェ・観光農園等先進地へ視察研修～	9/25	地域
9	園芸品目推進研修会を開催 ～園芸品目導入による複合経営のすすめ～	9/28	野菜
10	東部トルコギキョウ部会が研修会を開催 ～秋出しトルコギキョウの品質向上に向けて～	10/5	果樹花き
11	田川地域新規就農者のつどいを開催しました ～先輩就農者の経験から学ぶ～	10/24	地域
12	高校生向け就農講座を開催 ～田川地域の農業を知ろう～	10/27	地域

3 参考資料

13	集落営農組織が一般社団法人化 ～地域営農システムの確立を目指して～	10/30	水田農業
14	田川地域農振協園芸畜産部会が視察研修会を開催 ～地域資源循環型エコ肥料について学ぶ～	11/1	果樹花き
15	田川地域担い手支援体制強化研修会を開催 ～担い手支援担当者の「新規就農相談対応術」を学ぶ～	12/21	地域
16	筑豊地区指導農業士会研修交流会を開催 ～新会員との交流深まる～	12/22	園芸課
17	J Aたがわアスパラ部会で生産販売反省会を開催 ～令和6年産の春芽の収量・品質向上を目指して～	1/5	野菜
18	柿の栽培技術向上に係る視察研修会を実施 ～香春町の干し柿生産拡大に向けて～	2/5	果樹花き
19	田川地域農業振興協議会土地利用型部会が視察研修を実施 ～大豆及び麦類の新品種について学ぶ～	2/8	水田農業
20	令和5年度田川地域採種研修会を開催 ～優良種子の安定生産を目指して～	2/14	水田農業
21	田川地域農業経営研修会を開催 ～インボイス制度への理解が深まる～	2/21	地域
22	東部トルコギキョウ部会が秋期生産販売反省会を開催 ～来期の更なる品質向上に向けて～	3/1	果樹花き
23	筑豊地域花き生産者連絡協議会キク研究会が研修会を開催 ～農薬の効果的な使用方法について学ぶ～	3/12	果樹花き

(田川普及指導センターのホームページ <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/katsudou-tag2023.html> に掲載中)



周辺地図



アクセス

車

国道 201 号線「長浦」交差点
より約 6 分 (2.5km)

JR

J R 日田彦山線・平成筑豊鉄道
「田川伊田」駅より
徒歩約 15 分 (1.2km)

J R 日田彦山線・平成筑豊鉄道
「田川後藤寺」駅より
徒歩約 20 分 (1.7km)

福岡県飯塚農林事務所 田川普及指導センター

〒825-0002 福岡県田川市大字伊田 2741 番地の5

TEL : 0947-42-1428

FAX : 0947-44-1891

E-mail : tagawa-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4704901.html>

福岡県行政資料

分類 番号 PA	所属コード 4703427
登録 年度 05	登録番号 0002